

平成30年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園せいめいのもり

1. 本園の教育・保育目標

<p>★ 子どもたちへ</p> <ol style="list-style-type: none">① たくましい体と思いやりのある心を持つ② 相手を理解し受け止めながら、自分の気持ちを伝えられるようになる③ 正しい考えを持ち、心が豊かな人間になる④ 気持ちの良いあいさつができるようになる <p>★ 園としての運営目標</p> <ol style="list-style-type: none">① こども中心・あそび中心の『こどもの城』を目指す～遊びが子どもを育てる。② 心温まる愛に包まれた保育を！～保育教諭は子どもの心のサポーター③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。④ 家庭との連携を怠らず、『共育』の推進を図る。（親の心の声を聞く努力＝信頼関係）⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動。

2. 重点目標

こども中心あそび中心の『こどもの城』として、子どもの育ちの基本である『遊び』に没頭できる環境を重視することにより、集中力、協同性、意欲、創造性、忍耐等の様々な育ちを保障する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育方針の保護者理解を深める	見学者や在園児の保護者に園長だよりや動画等の様々な情報によって、遊びの大切さや保育の質、今後について細かく伝えてきた。
子どもの様子を見取り適切な保育計画を作成する。	乳児部から年少への進級がスムーズに行えたことで、保育教諭同士の連携を密にする関係性ができた。また、多角的に子どもの育ちを見取ることによって理解が深まり、見通しを持った計画を作成することができた。
保育の質の向上のため、保育研究を充実させる。	保育内容が子ども主体で組み立てていくと、それに付随した行事の在り方も課題になり、研究を進めてきた。しかし、保護者に見せる行事からなかなか脱することができないことを鑑みて、次年度への継続課題として研究に取り組む。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

せいめいのもりの保育観を保育教諭間で共有が図り、乳児部と幼児部間の接点も増えてきているが、より深いかかわりを考える。保育内容について、乳児部は園児が安心して保育教諭に心身を委ねることのできる関係づくりと、1クラスに従事する担任数が幼児部に比べ多いことから、保育教諭同士の関係性に重きを置き改善を図った。また、幼児部は行事の在り方を重点に研究を進めているが、内容そのものを劇的に変化させることより、担任それぞれが同一方向への保育理解を進めて緩やかに内容も改善している。同時に保護者への理解も、参観や懇談等の活用や紙面の発行をしているが、特に文字が多い紙面では意図が伝わりづらい（読みづらい）ということを課題として、今後改善を図る。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な幼児への対応のため人的環境を整え、効率と効果について考える。また各関係機関との連携を図り、保護者や幼児へ細かい対応を行う。
保育方針の保護者への浸透	保育教諭同士は当然、保護者理解をより進める工夫を考える。

6. 関連事業

<ol style="list-style-type: none">1. 地域への開放、子育て支援事業の実施 「あそぼうDAY」～年6回2. 未就園児教室「つぼみ組」火・木それぞれ～年18回ずつ3. 幼小の連携～苗穂小学校との交流4. 中学生のインターンシップ受け入れや高校への出前講義
